

<今日の説教のポイント エレミヤ書 31 章 31-34 節>

1 イスラエル滅亡は、神に背いた人間の最後に待っているものを表す。

アダムとエバから始まって旧約聖書に記されて行く人間の姿は、神様に選ばれながら神様に従わなかったイスラエル人に引き継がれ、ついに国家滅亡に至りました。神様は彼らに預言者を通して何度も警告して下さいなのに無視したので、それは自業自得と言える結末でした。

2 滅ぼされて当然の人間に、神様は救いの道を用意して下さい。

しかしその彼らに神様は預言者エレミヤを用いて、思いがけない救いの道を示されたのでした。それは、どうしても神様の教え（律法）に従えない人間が、神様がどの様なお方かを「知って」（34 ヤダーというヘブル語：頭だけで理解するのではない「知る」。創世記 4:1「**アダムは妻エバを知った**」）、それによって神様に立ち返る道でした。この「知る」ことを神様が私たちに起こして下さいというのです。

3 救いの根拠は人間の中にはない。神にある。それこそが救い！

この救いの凄さは、人間が頑張って手に入れる救いではなく、神様が与えて下さる救いであるという点にあります。つまり、救いの根拠は人間の中にはなく神様にある救いなのです。だから、どんな人もこの救いに与れるのであり、それを信じて歩むことができるのです。それはまさに、パウロがイエス・キリストによって知らされた神様の救いの道について述べている内容と同じです（ローマの信徒への手紙 1:16-17）。すなわち、イエス・キリストによる救いは、今日の箇所でも語られた神様の救いにまさにぴったりな救いなのです。

4 イエス・キリストによって一人一人が神様を深く知らされる。

今日の箇所に記された救いのもう一つの特徴は、それが大事だからといって人に押し付けなければならないような救いではないということです（「**主を知れ**」と言って教えることはない」（34））。聖書の信仰は、「これが正しいから信じよ」と言われたから信じるような信仰ではないですね。聖書に記されたイエス・キリストに出会い、その方の言動を知って（ヤダー）、「自分にはもうこのお方なしの人生は考えられない」と思うようになる信仰です。だからこのイエス・キリストを神様が与えて下さった出来事、クリスマスが大事なのです。